

# アートの楽しさ体験

## ぺんてるが新製品発表会

ぺんてる株式会社(和田優社長、東京都)は7月4日、東京・港区の竹芝ニューピアホールで、2024年展示会「手にとりて描いてなるほど!2024発表展示会」を開催、2日間で131人が来場して賑わった。

前日の3日午後2時から和田社長、高垣克己取締役製品戦略本部長、川崎貴昭本部長が出席してメディア懇談会が行われた。始めに和田社長がぺんてるの目指す方向性について「AI、デジタル化、少子化などの影響を受けて、市場は縮小傾向にあり、筆記具を取り巻く環境は厳しいが、世界に目を向けるとアートマテリアルな製品の売上は拡大している。ここに来てAIが絵画の世界を飛躍的に変化させている。弊社が賛している世界児童画展には毎年7万点の作品応募があるが、近年はデジタル原画に人の手を加えるようになった。AIアートの時代に何故アナログの描画材なのか。手を動かして表現する体験を通じて、感性が育まれ、生きる喜びにつながる。手描きが、人々の生活を豊かにする。そんな手描きのすばらしさを世界に伝えたい。ペ



和田社長(左)、高垣取締役(中)、川崎本部長(右)



体験コーナーを充実した会場

重要性を強調した。高垣製品戦略本部長は「世界を見るとアート市場は伸びている。デジタル化の波は止められないが、手書き・手描きの温もりや楽しさはアナログならではの。会場には体験コーナーを用意しており、販売店の方々には体験した実感をエンドユーザーに伝えてもらいたい。手書き・手描きの楽しさを店頭から消費者に伝えてもらおうと、「ぺんてる」を昨年より実施、今年も8月からスタートしているが、高齢者は増えていく。学校教育から離れて自由に文字や絵を描いて、ひとときを楽しんで欲しい」と挨拶。

この後、中沢英和マーケティングデザイングループ長がぺんてるのアーツ及び体験コーナーについて、各担当者が新製品の概要について、それぞれ説明を行った。

今回3作目となるぺんてるのアーツのプロモーションビデオは、描いて贈る人を主役とした「言えないかわりに編」。男の子が日ろ

# 秋冬新製品を発表

〇…サクラクレパス…〇

## AI活用の新サービスも

株式会社サクラクレパス(西村彦四郎社長、大阪市)



西村社長

は、7月4〜12日に東京都台東区の東京支社で「2024年秋冬新製品展示会」を事前予約制で開催した。会期中の11日に業界紙誌を招いて、記者懇談会を行い、西村社長が事業の概況や今後の戦略について語った。

事業の概況については「2023年度は連結決算で売上高は106%の463億円、このうち海外の売上は44%を占める。欧州、米国は2桁増の伸びだが、中国が思ったように伸びず、全体に大きく伸びずることができなかった。生産面ではベトナム工場、鹿兒島工場、大阪工場、それぞれ棲み分けができている。原材料及び物流費の高騰が収益を圧迫しており、今後物物流費の上昇は避けられず、更に生産効率を上げていきたい」と説明。

上期(1月〜6月期)については、「売上は国内、海外共に102%、経常利益は107%と売上・利益ともに前年を上回った。国内は、一般販売は伸びしたが、エデュースが苦戦。ただ、原価は上昇しているが、値上げ効果が効いている。仕様変更や生産工程の見直しなどで更なるコストダウンを図るとともに高付加価値の開発を進める」と、高騰する原材料費、物流費への対策として生産性や業務の効率化に努めて、付加価値を高める戦略を明かした。



秋冬の新製品や売場提案も行った展示会

10月26日に竣工式を予定している関西の新物流倉庫(6000坪)は、作業の

の感謝をお母さんに伝えるストーリー展開となっている。

体験コーナーは、「筆タッチサインペン」のインキ調剤体験「ミキシングカラーズ」、今年7月に国内発売になった「筆タッチサインペン」の暗室でのネオンカラー体験と、「フアフリックファイン布描きえのぐ」をオリジナルステンシルシートを使って着彩する「えのぐでポンポン」など。

「アーツクレヨン」の紹介コーナーでは、和田社長が描いた胡蝶蘭の絵を始め社員作品を展示して、注目を引いた。新ボールペン「フーチョン」では「体感・実感」の試し書きと、目で見て体験コーナーを設けた。

会場では発表の新製品は、クラウドファンディングで大きな反響を得た「アーツクレヨン」(10月中旬発売)、アーツ市場へ投入する2・0の色素8本を内蔵したホルダー式シャーペン「アーツマルチ8」(12月中旬発売)、カラムの

### 鈴木勝也氏が新社長に就任

〇・不易糊工業

不易糊工業株式会社は、6月26日開催の第121回定時株主総会並びに取締役会において、梶田安彦社長が代表取締役会長に、鈴木勝也専務が代表取締役社長に就任した。敬称略。

代表取締役会長 梶田安彦

代表取締役社長 鈴木勝也

常務取締役 浅倉俊幸  
監査役 梶田恒彦

取締役の川西利一氏は役員定年により退任した。

鈴木社長略歴 1981年長野県飯田市生まれ。2004年に東洋大学工学部応用化学科卒業後、進和テック株式会社入社。2013年に不易糊工業へ入社し、2018年3月〜2019年4月まで製造部長。2020年6月〜2022年7月まで取締役、2022年7月〜2024年6月まで専務取締役を務め、2024年6月に代表取締役社長に就任した。



新社長の鈴木勝也氏

自動化を図り、年間9000万円のコストダウンを見込んでいる。加えて、情報システムの基幹システムを30年振りに刷新、本社は1月から稼働している。

中期計画(2025年〜2032年)の重点目標については、第1にメーカーとしての成長を掲げて、サクラクレパスをグローバルブランドへと構築する。第2に新規事業として教育市場向けのソリューションビジネスの育成。産学連携で開発を進めている幼児の保護者向けにAIを活用したサービス(サービス名称IIイロドキ)を東京・大阪でテスト導入を開始した。

展示会場では、秋から年末にかけて発売する新商品や2025年に100周年を迎える「クレパス」の記念商品や販促企画、量販向けの新入学・新学期の売場提案を披露した。

このほか、「おかたづけシリーズ」こまごまファイルがSNSでバズり、発売1カ月半で年間販売目標を達成したトピックスを紹介。「こまごまファイル」は担当者お母さんの目線から、自身の困りごとから企画した商品で、SNSのユーザー投稿から話題になった。

KOKUYO

貼るって、こんなに変わる。

# GLOC

